

中秋の名月を愛でる 御殿のお月見会

「第12回御殿のお月見会」が9月29日、国指定名勝楽山園で開かれました。園内では箏や琵琶、篠笛の演奏が行われ、風雅な調べと虫の音の共演が楽しめました。凌雲亭では抹茶を嗜むことができ、「宵待ち縁日」では月見団子などの販売が行われたり、子どもたちがゲームに興じたりしてにぎわいました。ススキや団子が飾られた梅の茶屋や腰掛茶屋には、ろうそくの火に照らし出された幻想的な庭園に浮かぶ月を楽しむ人の姿もありました。この日は、2年ぶりに“中秋の名月”と“満月”が重なり、ひととき美しい月を楽しむことができました。



昆明池の水面に映り込む月



篠笛の澄んだ音色に聴き入る聴衆



子どもたちは「お菓子釣り」に挑戦



月見団子などの販売には行列も

活動の成果を披露 芸能発表会

甘楽町文化協会(中野薫明会長)主催の芸能発表会が10月8日、町文化会館で4年ぶりに開催されました。



甘楽町フォークダンス茶々Ⅱ



かんら南京玉すだれ芸友会

19団体153人の出演者が、舞踊や歌謡、各種ダンスに楽器演奏など多彩な演目を次々に披露しました。日ごろの活動の成果を存分に発揮する姿に、観客からは惜しみない拍手が送られました。

中島さんの100歳を慶祝

中島けささん(大正12年10月20日生まれ・小幡)が100歳の誕生日を迎えられ、10月20日に茂原町長が自宅を訪問し、慶祝状と祝金を手渡しました。

中島さんは富岡市小野地区の生まれで24歳のときに小幡に嫁ぎました。夫婦で自営業を営み、3人の娘と孫、ひ孫にも恵まれました。

今でも炊飯器でおかゆを作ったり味噌汁を温めたりするなど食事の用意や、デイサービスに出掛ける準備も自分でしています。中島さんはウナギが好物で「食べると長生きする気がします」とにこやかに話し、週に1回通っているデイサービスでも「皆が良くしてくれて楽しい」と、周囲への感謝の言葉を口にしました。



多文化共生の地域づくり

町国際交流振興協会(長岡昭宏理事長)は10月14日、町公民館で日本の交通ルールと自転車の正しい乗り方を学んでもらうことを目的に外国人を対象として「自転車交通安全講話」を行いました。

町内の事業所で働くベトナム、フィリピン、インドネシアの3カ国15人が参加し、それぞれの母国語で書かれたリーフレットを使用し自転車は原則車道を、左側通行をするなどの「安全利用五則」を学びました。その後、実際に自転車に乗り、見通しの悪い場所の多段階停止なども体験しました。

国際交流振興協会



真剣なまなざしで富岡警察署員の説明を聴く参加者

アルミ缶回収で表彰 福島小・新屋小

福島小学校(新井綱人校長・154人)と新屋小学校(中島剛校長・228人)が、アルミ缶リサイクル協会(東京都豊島区)主催のアルミ缶回収協力者表彰の優秀賞を受賞しました。10月4日には両校で同協会からそれぞれ感謝状と記念品が贈られました。



表彰を受ける福島小代表児童



賞状と記念品を受け取る新屋小代表児童

町内の小学校ではアルミ缶回収の取り組みを積極的に行っており、アルミ缶リサイクル回収拠点事業所として協会から認定されている田村商事有限会社(田村直幸社長)が各校のリサイクル活動を推薦し、表彰されたものです。

優勝は20区若連会！町夏季野球大会

第46回夏季野球大会の決勝戦が10月1日に甘楽野球場で開かれ、20区若連会が優勝しました。

大会結果、個人賞は次のとおりです。(敬称略)

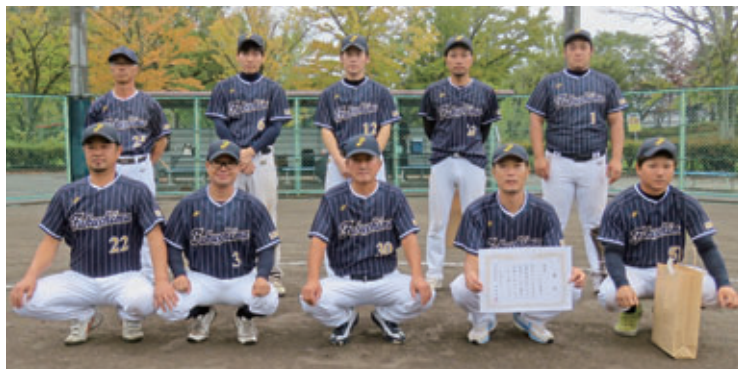
優勝…20区若連会(右写真)

準優勝…甘楽町役場A

☆最優秀選手賞…浅野広太郎(20区若連会)

☆殊勲賞……………斉田竜輔(20区若連会)

☆敢闘賞……………宗意卓也(甘楽町役場A)



響く気合と竹刀の音 剣道で交流

甘楽町と東京都北区の剣道交流稽古会が10月1日、旧甘楽第二中学校体育館で昨年に引き続き行われ、東京都北区剣道連盟(九万田勉会長)から19人、群馬県剣道連盟甘楽富岡支部(内藤郁芳支部長・白倉)からは10人が参加しました。

参加した剣道愛好家たちは鋭いまなざしで構え剣を交え、日頃の稽古の成果を出し合いました。互いの技を磨き合った剣士たちの額には大粒の汗が流れ、稽古終了後には居合道の演武も披露されました。

内藤支部長は「楽しく有意義な交流の中にも真剣勝負ができて充実した稽古会でした。今後も“交剣知愛”^{こうけんちあい}の精神を大切に、相互のさらなる発展を目指したい」と話されました。



強い絆で躍進 フットサルで県準優勝

「第27回群馬県U-15フットサル大会兼第29回全日本U-15フットサル選手権大会群馬県大会」が9月24日、渋川市総合公園体育館で開催され、甘楽中学校サッカー部を夏に引退した3年生で結成されたKanra.J.H.S(橋爪貴弘監督・茂原奏琉キャプテン)が出場しました。

同チームは予選リーグを全勝で勝ち抜き、準決勝ではPK戦を制し決勝進出という快進撃を見せました。決勝では惜しくも敗れ、関東大会への切符は逃したものの準優勝という輝かしい成績を残しました。

茂原キャプテンは「サッカーとは異なり狭いコートで素早いプレーが求められるため、練習相手の先輩方にアドバイスをもらうことで成果が出せました。これからも仲間と楽しくボールを蹴っていきたいです」と笑顔をのぞかせました。



3年間共に戦った仲間との最後のプレーを楽しんだメンバー

プロレスで町を元気に 妻木さん

東京都内を中心に活動する「プロレスリングBASARA(バサラ)」の県内初となる興行が町主催で10月14日、甘楽中学校体育館で開催されました。

張り手などの打撃音やマットに叩きつけられる衝撃音などの臨場感に観客は興奮し、メイン試合のタッグ戦にFUMAこと町の地域おこし協力隊員の妻木洋夫さん(小川)が登場すると場内の熱気は最高潮に。

試合前には子どもたちにロープを使ったトレーニング方法などを教え、小さなレスラーの堂々たる姿に会場内からは歓声が上がりました。



選手コールに応えるFUMA選手



死闘を繰り広げるFUMA選手に観客も釘付け

妻木さんは10年以上前からプロレスラーとしてリングに立ち、令和3年9月からは町内で農業や養蜂、有害鳥獣駆除などに取り組んでいます。

以前から町でプロレス大会を開催し地域活性化に貢献したいと話していた妻木さんは「受け入れてもらえるのか不安もありましたが、念願の町開催ができ喜びもひとしおです。プロレスを生で見る迫力を感じ、皆さんが楽しんでいるのがリング上にいてもひしひしと伝わってきました」と熱く語りました。

ブータンの研修生を激励

JICA(国際協力機構)の技術協力プログラムでブータン王国から来町していた研修生2人が10月7日、役場を訪れ茂原町長の激励を受けました。

ブータン国立有機農業センターのウゲンさんと国立種苗センターのサンゲイさんは、滞在中は農業を中心とした国際交流事業に取り組む自然塾寺子屋(小幡)を拠点に、群馬や長野、静岡の農園で実習を行うなど日本の果樹栽培技術や農場管理を学びました。そして、約3週間の研修を終え、10月25日には帰国の途につきました。



懇談後、写真撮影に応じる研修生と茂原町長

学校の垣根を越え交流

パワフル子ども会と町子ども会育成会連絡協議会が主催するイベントが10月14日、甘楽ふれあいの丘陵上競技場と甘楽町体育館で開かれました。

パワフル子ども会は町内全域の児童が対象で、各小学校の6年生の代表児童19人が役員となり、学校の垣根を越え企画・準備・運営にあたりました。

約160人の児童が参加し、班ごとに分かれて「〇×クイズ」「ワークショップ(くるくるレインボーづくり)」「キックターゲット」の3種目を行い、会場には子どもたちの歓声や笑顔があふれました。



当たったボードの大きさによって得点が異なるキックボード

二段跳び優勝 三木さん

三木秀雄さん(77歳・金井)が、10月7～9日に山口県で開かれた第44回全日本マスターズ陸上競技選手権大会に出場し、男子M75(75～79歳)クラスの三段跳びで7m97cmの記録を出し優勝しました。

短距離やハードルを中心に数々の国際大会で活躍してきた三木さんは、昨年から新しいことに挑戦しようと三段跳びの練習を開始し見事な結果を残しました。

「自分が頑張っている姿を町民の皆さんに届け、いくつになっても夢があるほうが人生の張りになると伝えたい」と熱い思いを語りました。

「80歳で世界大会に出てハードルや三段跳びでメダルを取ることが次の目標」と話す三木さん



手話言語の国際デー

「手話言語の国際デー」に合わせ国指定名勝楽山園の中門や拾九間長屋が9月23日、シンボルカラーの青色にライトアップされました。

「手話言語の国際デー」は、2017年に国連総会の決議により制定され、世界ろう連盟の呼びかけで各地でイベントが行われています。

町でも手話言語条例を制定しており、企画の趣旨に賛同し、手話が言語であることを多くの人に知ってもらうため今回初めてライトアップを行いました。



国連や世界ろう連盟のロゴの色で「世界平和」を表す青色に照らされた楽山園の中門

地域をきれいに

甘楽町シルバー人材センターの会員互助会(堀口昇会長)は9月22日、清掃活動を行いながらウォーキングによる健康増進と会員同士の親睦を深めるため、「健康ボランティア活動」を実施しました。

当日は会員46人が参加し、4班に分かれて織田公園や紅葉山、八幡山周辺、甘楽ふれあいの丘のごみ拾いを行いました。

堀口会長は「今年も大勢の会員が参加し、地域のごみ拾いをしながら会員同士の交流も深められました。来年もぜひ開催したい」と抱負を語りました。

一昨年、昨年と実施し恒例となったボランティア活動



私のお宝を展示

甘楽町郷土史研究会(三木幸児会長・会員17人)は、10月4日から8日まで町文化会館で「私のお宝展」を開きました。同会は、町の歴史などを調査・研究しており、活動の一環として会員の所蔵する織田氏の甲冑や小幡氏の赤備えの鞍、漆器、掛け軸など約190点を展示しました。

三木会長は「遠方からの来場者も多く町のPRができました。歴史に限らず書など各分野に精通した人との出会いもあった展示会でした」と話しました。



訪れた人に展示物(漆器)の解説する会員